

## 中央社保協が全国代表者会議を開催～43 団体から 91 人が参加

### 国保改善の全国的な運動を期待する発言がありました

2月9日（水）、中央社保協の全国代表者会議が開かれ、総会（8月上旬）までの活動方針について議論されました。43 団体から 91 人が参加しました。山口事務局長から基調報告がされ、情勢やこの間の運動の到達点、総会までの活動方針について提案されました。

討論では、中央団体や各県社保協から 21 人が発言。和歌山県社保協は、不服審査請求運動を全国で広げる提起を行ってほしいという点、国保、介護、後期高齢者医療の抜本的改革には全国的な運動が必要であることから中央としての旗振りを行うよう、求めました。国保改善を求める運動について全国的な行動提起を求める意見が相次ぎました。

神奈川県では、国保が来年度 5%程度引き上げになる見込みで、各市町村に対して、基金を取り崩して保険料の引き下げを求める運動、こどもの均等割をさらに独自に改善させる、資格証・短期証をゼロにさせる運動を提起しています。こどもの均等割は 3 自治体で 18 歳まで全額減免を行っています。小田原市が短期証の発行をためました。理由は費用対効果が薄いし、医療を受ける権利を保障すべきだという考え方からです。

京都からは、来年度の国保料は 25 自治体が引き上げ、引き下げは 1 自治体にとどまるという報告、平均で 6.7%、11, 180 円もの大幅な引き上げです。後期高齢者支援金負担が増えている、医療費のびていることが原因だということです。国保制度そのものをかえていく運動が必要だと発言されました。沖縄県も国保財政は厳しい状況で、全国的な運動を求める発言がありました。

愛知県からは、後期高齢者医療の不服審査請求を 890 人が提出した、昨年よりも 300 人も増やしたという報告がありました。

## ◎大阪社保協が国保改善の学習交流集会を開催

### ～基金を活用して保険料引き下げを

#### コロナ支援金を収入にカウントするな

大阪社保協が 2 月 10 日（木）に、国保の学習交流集会を開催しました。寺内事務局長は、2018 年度から国から 3, 400 億円の財源が投入されたこと等により国保会計は全国的に黒字基調になっていると説明されました。各自治体にはこのため基金が積み上げられているので、これを還元させる運動が必要だと呼びかけられました。

能勢町では、基金を取り崩して 1 万円ずつを還元したことが報告され、島本町では 5 億円もの基金があることを住民に全戸ビラで知らせる活動に取り組んでいることが紹介されました。

民商からは、コロナによる支援金が収入にカウントされ、国保料が上がったり、市営住宅の家賃にはねかえったりしている問題を取りあげて要請していることが報告されました。羽曳野市では、こどもの均等割の半額減免を 1 年前倒しで実施していることが紹介されました。

和歌山県でも各自治体に基金が積み上がっています。来年度の国保料は基金を取り崩して下げるよう、運動を起こしましょう。